

「神を箱に入れてしまった」

サムエル記第14章1～11節

1

サムエルのことばが全イスラエルに行き渡ったころ、イスラエルはペリシテ人を迎え撃つために戦いに出てエベン・エゼルのあたりに陣を敷いた。ペリシテ人はアフェクに陣を敷いた。ペリシテ人はイスラエルを迎え撃つ陣ぞなえをした。戦いが始まると、イスラエルはペリシテ人に打ち負かされ、約四千人が野の陣地で打たれた。民が陣営に戻って来たとき、イスラエルの長老たちは言った。「なぜ【主】は、きょう、ペリシテ人の前でわれわれを打ったのだろう。シロから【主】の契約の箱をわれわれのところに持って来よう。そうすれば、それがわれわれの真ん中に来て、われわれを敵の手から救おう。」そこで民はシロに人を送った。彼らはそこから、ケルビムに座しておられる万軍の【主】の契約の箱をかついで来た。エリのふたりの息子、ホフニとピネハスも、神の契約の箱といっしょにそこに来た。【主】の契約の箱が陣営に着いたとき、全イスラエルは大歓声をあげた。それで地はどよめいた。1サムエル 4:1-5

2

ペリシテ人は、その歓声を聞いて、「ヘブル人の陣営の、あの歓声は何だろう」と言った。そして、【主】の箱が陣営に着いたと知ったとき、ペリシテ人は、「神が陣営に来た」と言って、恐れた。そして言った。「ああ、困ったことだ。今まで、こんなことはなかった。ああ、困ったことだ。だれがこの力ある神々の手から、われわれを救い出してくれよう。これらの神々は、荒野で、ありとあらゆる災害をもってエジプトを打った神々だ。さあ、ペリシテ人よ。奮い立て。男らしくふるまえ。さもないと、ヘブル人がおまえたちに仕えたように、おまえたちがヘブル人に仕えるようになる。男らしくふるまって戦え。」こうしてペリシテ人は戦ったので、イスラエルは打ち負かされ、おのおの自分たちの天幕に逃げた。そのとき、非常に激しい疫病が起こり、イスラエルの歩兵三万人が倒れた。神の箱は奪われ、エリのふたりの息子、ホフニとピネハスは死んだ。1サムエル 4:6-11

3

神を使おうとする自己中心の信仰

- 問題解決専用の神(お客様相談窓口)
- 「神の箱」を使って戦争に勝とうとした



- めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。

4

神を使おうとする自己中心の信仰

- イスラエルよ。今、あなたの神、【主】が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただ、あなたの神、【主】を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、【主】に仕え、あなたのしあわせのために、私が、きょう、あなたに命じる【主】の命令と主のおきてとを守ることである。申命10:12-13
- 神を使うことはできない。真の神を知っていながら、偶像崇拝者のように、神々を操ろうとしている。お札やお守りのように使う。(売っている)

5

神を使おうとする自己中心の信仰

どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、御顔を私たちの上に照り輝かしてください。それは、あなたの道が地の上に、あなたの御救いがすべての国々の間に知られるためです。神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように、、、神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように。地はその産物を出しました。神、私たちの神が、私たちを祝福してください。神が私たちを祝福してください。神が私たちを祝福してください。地が果て果てが、ことごとく神を恐れますように。詩 67:1-7

6

神を使おうとする自己中心の信仰

- 聖書の神は、神から迷い出た人間が悔い改め、神に立ち返り、神に従って神と一緒に生きることを求める。
- 聖書の神は、自分中心の人間がその欲望を満たすのを助ける神ではなく、その人間が自分が問題であることに気づき、悔い改め、自分中心から神中心の人間に変えて下さる神。
- 神を愛し、神に仕え、人を愛し、人に仕えることを教える神。

7

神を使おうとする自己中心の信仰

- ルツの信仰、ボアズの信仰。この世の価値観は人を本当の意味で幸せにできない。
- 自分よりも他の人のために。受けるよりも与えるほうが幸い。
- 悔い改めるとは、神を使おうとするような、わがままで、自分中心な自分をいやし、砕いて作り直してくださいと願うこと。神に仕えさせてくださいと願うこと。弟子として訓練してくださいと願うこと。

8

神に仕える神中心の信仰

- 自分の目に正しいことではなく、神の目に正しいことを求める。御心を行ってください。御心に従いますという姿勢。
- 神に治めてください。支配してくださいという祈り。主の祈りを生きる信仰生活。
- 委ねることは自分に死ぬこと。従うことは自分に死ぬこと。ルカ9:23
- (注意)死ななくていいと言っている悪魔のことばのほうが魅力的。

9

私たちが神の箱(使っていただく)

- 神を箱に入れてしまう傾向
- 神を儀式に、神を知識(教え)に、そのほうが扱いやすい
- 神の箱 今日神の箱 私たちの体、教会
1コリント6:19-20、ローマ12:1
- それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々の場合に、おおいが掛かっているのです。その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。2コリント4:3-4

10

私たちが神の箱(使っていただく)

- 私たちは、この宝を、土の器の中に入れていけるのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。2コリント4:7
- 欠けた部分、ひびの入った部分から光が出る



11

私たちが神の箱(使っていただく)

- 困ったときだけ神を求める。問題にぶつかったときだけ神を求める信仰は成長できません。
- 戦後のクリスチャンブーム。日本が貧しい時に流行り、豊かになるとすたれました。
- 「ライスクリスチャン」という言葉
- 先週は豊かな信仰をルツから学びました。ルツはナオミのために生きる人生を、ボアズはナオミとルツのために生きる人生を選びました。イエス様はルツとボアズの子孫として生まれました。
- イエス様から「受けるよりも与えるほうが幸い」という生き方を学びましょう。

12